

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 7 年 1 月調査結果 - -

(平成 1 7 年 2 月 1 日)

調査期間：平成 1 7 年 1 月 1 9 日 ~ 2 5 日

調査対象：全国の 4 0 4 商工会議所が 2 5 9 6 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 3 製造業 6 2 6 卸売業 2 3 4
小売業 7 4 2 サービス業 6 1 1

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 3
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成17年1月調査結果のポイント】

業況D Iは6カ月ぶりにマイナス幅が縮小するも、景況停滞感が続く

1月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（ 35.9）よりマイナス幅が1.7ポイント縮小して 34.2となり、6カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

業種別の業況D Iは、建設、製造、サービスでマイナス幅が拡大したが、卸売、小売で縮小したため、全産業合計の業況D Iのマイナス幅も縮小した。引き続き業況は好調との声はあるものの、公共事業の縮小や消費の低迷、原油・素材価格の高騰などによる景気の先行き悪化を懸念する声が寄せられている。

【建設業】では、「災害復旧の関連工事により、前年同月より業況は良い」（土木工事）との声はあるものの、「公共事業の縮減、民間工事の低迷など、相変わらず業況は厳しい」（一般工事）、「官公需、民需とも激減し、原価割れ受注により危機的状況」（一般工事）と、厳しい状況を訴える声が寄せられており、引き続き「鋼材の価格上昇により採算悪化」（一般工事）と、仕入コスト上昇の影響を訴える声も寄せられている。

【製造業】では、「受注の波はあるものの、業績は安定している」（船舶）との声の一方、「機械加工業は前年同月比では好調だが、企業間格差は明確に出ている」（金属加工機械）といった声や、「デジタル家電の売上がやや減少したため、その関係の設備投資が悪化している」（通信機械器具）、「業界内では、少ないパイを巡って受注を取り合っている状況」（電子部品）と、受注の減少と競争激化を訴える声が寄せられている。また、「鉄鋼価格の上昇により採算が悪化し、鋼材の一部では品不足も出てきた」（金属加工機械）と、原材料の価格高騰と入手難を訴える声が寄せられている。

【卸売業】では、「売上は増加中で業況は良好だが、今後は落ち着いてくるものと思われる」（農畜産水産物）、「全般的に末端消費の先行きが依然として不透明なことから、需要が低迷気味」（衣服、日用品）といった声や、「鋼材の価格高騰に伴う金属製品の値上げ要求が地元製造業界から出され、他産地からも同様の要求があり厳しい状況」（各種商品）と、引き続き仕入コスト上昇の影響を訴える声が寄せられている。

【小売業】では、「初売セールは前年実績を上回り、特に福袋が好調だった」（百貨店）、「各店の初売セールは好調で、その後の冬物バーゲンも来客が多く、中旬以降は気温が下がりコート類など重衣料が動き出したため、売上は好調に推移している」（商店街）といった声が寄せられている一方、「良かったのは年始の一週間のみで、その後冬物バーゲンが落ち着くと業況は急降下」（百貨店）、「消費の低迷と多様化により、既存の商店街は厳しい状況が続いている」（商店街）、「ビールメーカーのリベート制の廃止で、仕入単価が上がっている」（飲食料）といった声が寄せられている。

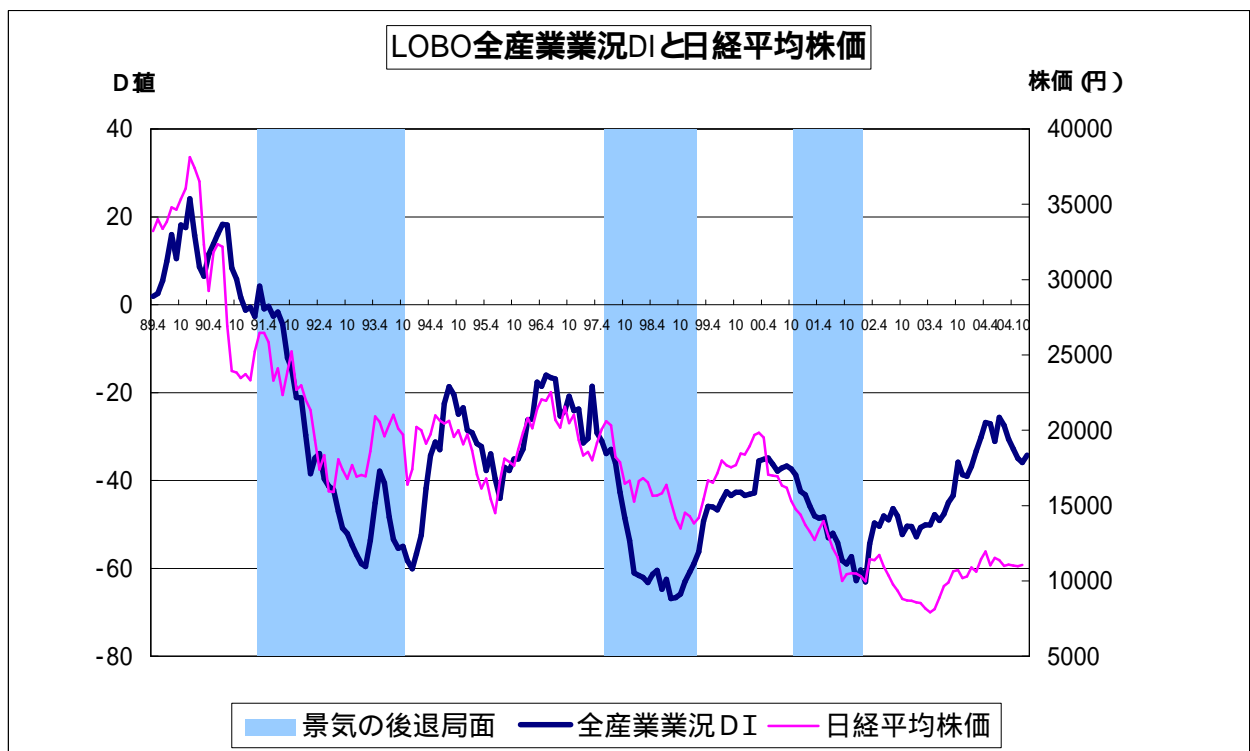
【サービス業】では、「年末と比べると業況はやや良い」（食堂、レストラン）との声はあるものの、「数年前ほど新年会需要がない」（飲食店）といった声や、「1月から自動車リサイクル法が施行され、12月中に駆け込み車検があったため、今月と来月の車検整備は減少となる見込み」（自動車整備）との声や、「1月から消費税の免税点が引き下げられたため、新たに課税対象になった店舗は消費税分を価格に転嫁できず、実質的な値下げを余儀なくされている」（食堂、レストラン）といった声が寄せられている。

売上面では、D I 値のマイナス幅は製造、卸売、サービスで拡大したが、建設、小売で縮小したため、全産業合計の売上D I は 30.3 と前月から横ばいとなった。

採算面では、D I 値のマイナス幅は建設、卸売、サービスで拡大したが、製造、小売で縮小したため、全産業合計の採算D I は1.5ポイント縮小して 33.2 となり、3カ月ぶりに縮小した。

向こう3カ月(2月～4月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I (今月比ベース)が 33.1 と、昨年同時期の先行き見通し(30.6)に比べて悪化している。

景気に関する声、当面する問題としては、製造業を中心に業況は好調との声がある一方、引き続き公共事業の縮小や消費の低迷、原油・素材価格の高騰による仕入コストの上昇を訴える声が多く見られた。



【業況についての判断】

1月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（ 35.9 ）よりマイナス幅が1.7ポイント縮小して 34.2となり、6カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

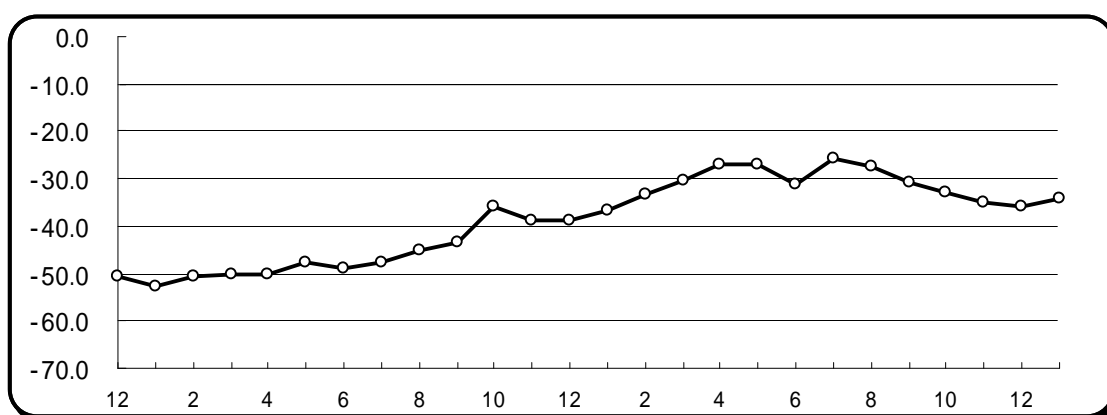
向こう3カ月（2月～4月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が 33.1と、昨年同時期の先行き見通し（ 30.6 ）に比べて悪化している。

業況DI（前年同月比）の推移

	16年 8月	9月	10月	11月	12月	17年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	27.4	30.6	32.8	35.0	35.9	34.2	33.1 (30.6)
建設	43.7	42.1	48.1	47.1	47.3	48.2	46.9 (48.6)
製造	14.6	18.4	16.6	15.6	20.2	21.8	24.6 (18.6)
卸売	33.7	34.5	31.3	26.5	35.6	34.7	28.3 (25.3)
小売	31.5	33.6	37.2	43.6	46.3	37.2	35.9 (34.5)
サービス	22.4	31.2	35.2	41.0	33.1	34.8	31.8 (28.9)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI
（ ）内は昨年1月の先行き見通しDI < 以下同じ >

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

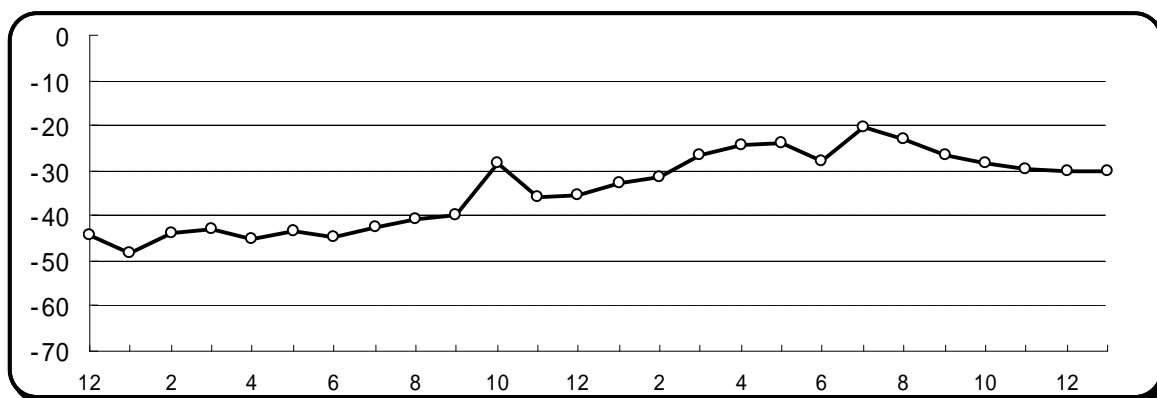
売上面では、D I 値のマイナス幅は製造、卸売、サービスで拡大したが、建設、小売で縮小したため、全産業合計の売上D I は 30.3 と前月から横ばいとなった。

向こう3カ月(2月～4月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I (今月比ベース)が 28.5 と、昨年同時期の先行き見通し(26.6)に比べて悪化している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	16年 8月	9月	10月	11月	12月	1月	先行き見通し 2～4月
全産業	23.2	26.4	28.2	29.5	30.3	30.3	28.5 (26.6)
建設	38.8	35.1	43.1	39.6	44.5	44.4	42.0 (41.9)
製造	8.1	10.8	4.0	5.4	11.1	12.6	16.8 (13.2)
卸売	29.5	34.5	28.3	26.5	21.3	31.7	26.5 (28.9)
小売	28.2	31.1	37.3	39.9	44.8	39.1	31.7 (29.6)
サービス	20.0	28.6	33.3	37.3	27.7	29.2	29.1 (26.3)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

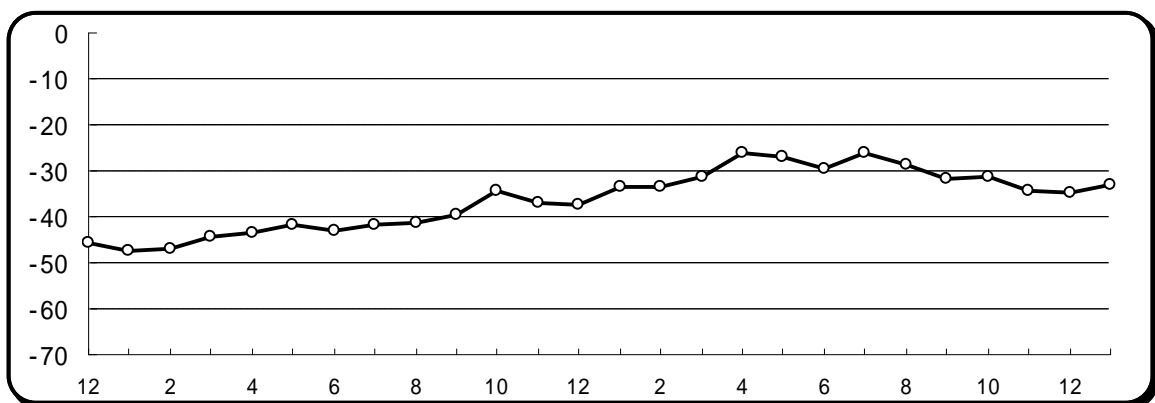
採算面では、D I 値のマイナス幅は建設、卸売、サービスで拡大したが、製造、小売で縮小したため、全産業合計の採算D I は1.5ポイント縮小して 33.2 となり、3カ月ぶりに縮小した。

向こう3カ月(2月～4月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I (今月比ベース)が 30.3 と、昨年同時期の先行き見通し(27.7)に比べて悪化している。

採算D I (前年同月比)の推移

	16年 8月	9月	10月	11月	12月	17年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	28.8	31.6	31.4	34.3	34.7	33.2	30.3 (27.7)
建設	45.5	48.7	45.9	47.1	47.4	49.1	45.7 (44.0)
製造	23.8	24.4	22.9	22.2	27.5	25.9	26.3 (21.7)
卸売	31.3	27.4	22.9	25.3	24.4	27.1	21.7 (23.5)
小売	28.1	29.1	31.9	36.5	42.3	34.7	27.7 (25.6)
サービス	22.6	32.8	33.5	39.6	29.0	31.4	31.3 (27.4)

《採算D I (全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	16年 8月	9月	10月	11月	12月	17年 1月	先行き見通し 2~4月
全産業	20.0	21.2	21.7	24.6	24.0	24.2	22.6 (24.3)
建設	36.5	36.1	37.8	43.7	38.8	41.5	37.6 (41.2)
製造	16.2	16.3	15.5	16.5	20.7	20.9	18.7 (21.7)
卸売	16.8	17.4	16.4	23.6	18.5	17.8	13.6 (18.5)
小売	16.0	19.1	19.8	21.6	22.0	19.0	19.9 (19.2)
サービス	17.3	19.6	20.7	23.1	21.3	23.8	23.6 (23.8)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】卸売、小売を除く3業種で悪化超感が強まったため、全産業合計でも2カ月ぶりに強まる。

【先行き見通しD I】小売を除く4業種で昨年同時期に比べて悪化超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	16年 8月	9月	10月	11月	12月	17年 1月	先行き見通し 2~4月
全産業	14.1	16.5	21.2	22.8	19.9	19.1	15.2 (6.6)
建設	21.5	23.1	27.8	28.8	25.4	24.0	24.8 (5.3)
製造	31.2	35.7	33.7	37.5	33.9	38.4	29.0 (15.6)
卸売	6.0	14.6	18.7	22.9	22.6	17.4	15.1 (9.0)
小売	2.7	3.0	9.6	9.3	6.7	3.6	3.4 (1.6)
サービス	8.2	8.4	18.0	19.3	15.6	13.9	7.7 (6.5)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】製造を除く4業種で上昇超感が弱まったため、全産業合計でも2カ月連続で弱まる。

【先行き見通しD I】全業種で昨年同時期に比べて上昇超感が強まり、全産業合計でも強まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	16年 8月	9月	10月	11月	12月	17年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	6.2	5.3	6.1	5.4	6.9	6.6	7.8 (10.3)
建設	25.6	23.0	22.0	23.6	23.8	23.9	19.0 (23.8)
製造	6.2	3.2	5.0	3.2	6.0	5.0	9.9 (10.8)
卸売	7.2	9.7	10.8	7.8	9.4	6.6	12.1 (14.2)
小売	0.8	2.0	1.4	1.4	3.1	1.2	2.0 (6.0)
サービス	1.2	2.3	0.2	2.7	0.0	3.4	2.9 (3.5)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】建設、サービスを除く3業種で過剰超感が弱まったため、全産業合計でも2カ月ぶりに弱まる。

【先行き見通しD I】全業種で昨年同時期に比べて過剰超感が弱まったため、全産業合計でも弱まる見通し。

【平成17年1月の景気キーワード】

悪化への懸念

各業種から、業況の悪化と先行きへの懸念を訴える声が多く寄せられている。「公共工事の減少傾向には歯止めがかからず、民間工事の動きも悪く、収益状況、資金繰りとも悪化し、業況は非常に厳しい」(米子・一般工事)、「調整局面のため、先行き不安感あり」(北上・電気機器製造)、「繊維関連機械は、中国での引き締めの影響により、足踏み状態が続いている」(金沢・金属製品製造)、「各種食品、繊維関係で売上減少傾向が続く、ともに採算、資金繰りが悪化しており、先行きも期待薄」(帯広・各種商品卸売)、「冬物セールによるプライスダウンにより、売上は前年同月比横ばいか下回っている」(一宮・百貨店)といった声が寄せられている。また、「正月休みの並びの悪さもあり、正月らしさが全くなく、来客数、売上とも減少が顕著」(銚子・商店街)、「年末は例年どおりビジネス客が減少したうえ、休日が少なく観光客も一時に集中し、結果的に減少した」(長野・旅館)と、年末年始の休日数が少なかった影響や、「セメント、鋼材関係の仕入単価の上昇傾向が止まらない」(尾道・一般工事)、「受注は増加しているが鋼材等が値上がりし、先行きにも不安感がある」(館山・金属加工機械製造)、「プラスチック製品、鋼材の値上げにより、販売価格に転嫁出来ない物は利益圧迫要因となっている」(ひたちなか・各種小売)と、引き続き仕入コスト上昇の影響を訴える声が寄せられている。

回復への動き

各業種から、業況は引き続き好調との声も寄せられている。建設、製造からは「災害復旧工事のため、年度末に向け受注は増加傾向」(須賀川・一般工事)、「塗装工事業界はまだまだ厳しい状況だが、昨年よりは少し明るい兆しが見えてきている」(鎌倉・塗装工事)、「相変わらず自動車、IT業界の好調などにより受注の増加傾向が続いており、農業機械は新型トラクターの北米、欧州への輸出が伸びている」(松山・一般産業用機械製造)、「積極的な企業の設備投資意欲は強く、NC機器等では発注から納品まで5～6カ月要する状況」(下館・金物類製造)といった声が寄せられている。卸売、小売、サービスからは「季節商品の売上が伸びている」(下関・各種商品卸売)、「1月2日の初売は過去最高の売上で、暖冬の反動で、婦人・紳士衣料を中心とした冬物クリアランスセールが好調」(静岡・百貨店)、「2日初売りの福袋、クリアランスセールが好調で、12月よりも勢いがあり、さらに企業業績の改善により所得の増加が進めば、消費の改善も進むものと思われる」(京都・百貨店)と、年始の季節商品の売上が好調との声や、「正月の観光客が増加し、売上が伸びた」(鎌倉・食堂、レストラン)、「人手不足により、派遣社員の募集を強化」(名古屋・人材派遣)といった声が寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
16年 11月	回復への動き	悪化への懸念	暖冬の影響
12月	悪化への懸念	回復への動き	
17年 1月	悪化への懸念	回復への動き	

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などについての自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D Iは2カ月連続、採算D Iは3カ月連続でマイナス幅が拡大し、売上D Iは2カ月ぶりに縮小した。「災害復旧の関連工事により、前年同月より業況は良い」(土木工事)との声はあるものの、「公共事業が増える見込みなし」(一般工事)、「公共事業の縮減、民間工事の低迷など、相変わらず業況は厳しい」(一般工事)、「官公需、民需とも激減し、原価割れ受注により危機的状況」(一般工事)と、厳しい状況を訴える声が寄せられており、引き続き「鋼材の価格上昇により採算悪化」(一般工事)と、仕入コスト上昇の影響を訴える声も寄せられている。
製 造	業況D Iは2カ月連続、売上D Iは3カ月連続でマイナス幅が拡大し、採算D Iは2カ月ぶりに縮小した。「受注の波はあるものの、業績は安定している」(船舶)との声の一方、「銑鉄鋳物関係の受注は引き続き多いが、非鉄鋳物の受注はやや減少」(鉄素形材)、「機械加工業は前年比では好調だが、企業間格差は明確に出ている」(金属加工機械)といった声や、「デジタル家電の売上がやや減少したため、その関係の設備投資が悪化している」(通信機械器具)、「業界内では、少ないパイを巡って受注を取り合っている状況」(電子部品)と、受注の減少と競争激化を訴える声が寄せられている。また、「鉄鋼価格の上昇により採算が悪化し、鋼材の一部では品不足も出てきた」(金属加工機械)と、原材料の価格高騰と入手難を訴える声が寄せられている。
卸 売	業況D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小し、売上D Iは4カ月ぶり、採算D Iは2カ月ぶりに拡大した。「売上は増加中で業況は良好だが、今後は落ち着いてくるものと思われる」(農畜産水産物)、「全般的に末端消費の先行きが依然として不透明なことから、需要が低迷気味」(衣服、日用品)、「購買力の回復は感じるものの、12月の歳末時期の売上は期待レベルに達せず、商品の選択基準が厳しくなった消費者に売れる、地域限定などの希少価値のある商品の開発が急務」(農畜産水産物)といった声や、「鋼材の価格高騰に伴う金属製品の値上げ要求が地元製造業界から出され、他産地からも同様の要求があり厳しい状況」(各種商品)と、引き続き仕入コスト上昇の影響を訴える声が寄せられている。
小 売	業況、売上、採算D Iとも6カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「初売セールは前年実績を上回り、特に福袋が好調だった」(百貨店)、「各店の初売セールは好調で、その後の冬物バーゲンも来客が多く、中旬以降は気温が下がりコート類など重衣料が動き出したため、売上は好調に推移している」(商店街)、「男性用カジュアルウェア、ビジネスウェアが好調」(百貨店)といった声が寄せられている一方、「良かったのは年始の一週間のみで、その後冬物バーゲンが落ち着くと業況は急降下」(百貨店)、「消費の低迷と多様化により、既存の商店街は厳しい状況が続いている」(商店街)、「ビールメーカーのリベート制の廃止で、仕入単価が上がっている」(飲食料)といった声が寄せられている。
サービス	業況、売上、採算D Iとも2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「年末と比べると業況はやや良い」(食堂、レストラン)との声はあるものの、「数年前ほど新年会需要がない」(飲食店)、「同業者間の格差が大きくなり、慢性的に不採算の事業所が見受けられる」(旅館)といった声のほか、「1月から自動車リサイクル法が施行され、12月中に駆け込み車検があったため、今月と来月の車検整備は減少となる見込み」(自動車整備)との声や、「1月から消費税の免税点が引き下げられたため、新たに課税対象になった店舗は消費税分を価格に転嫁できず、実質的な値下げを余儀なくされている」(食堂、レストラン)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、関東、東海、近畿でマイナス幅が拡大したが、他の6ブロックで縮小したため、全ブロック合計でも6カ月ぶりに縮小した。

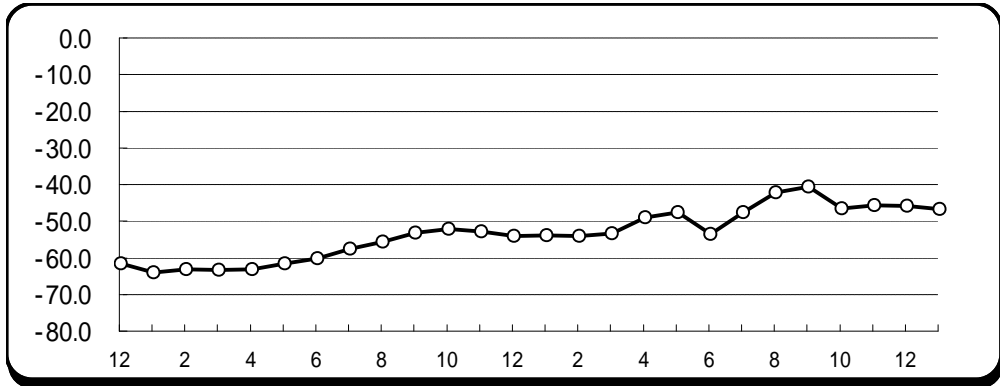
ブロック別の向こう3カ月(2月~4月)の業況の先行き見通しは、関東、近畿で昨年同時期と比べて改善したが、他の7ブロックで悪化したため、全ブロック合計でも悪化している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

	16年 8月	9月	10月	11月	12月	17年 1月	先行き見通し 2~4月
全 国	27.4	30.6	32.8	35.0	35.9	34.2	33.1 (30.6)
北海道	28.1	28.4	23.7	33.3	39.7	37.1	35.7 (26.3)
東 北	30.7	35.9	37.9	42.3	50.3	44.0	46.5 (37.7)
北陸信越	22.0	35.0	33.1	37.3	34.3	26.1	34.1 (25.3)
関 東	23.0	23.0	27.0	31.6	30.0	30.7	25.2 (27.1)
東 海	24.3	23.4	20.0	23.7	27.3	29.0	32.8 (28.2)
近 畿	34.3	35.4	37.5	40.8	35.9	38.9	36.2 (39.9)
中 国	30.3	33.3	42.1	31.8	40.4	35.8	35.8 (28.1)
四 国	36.2	43.4	49.3	42.2	40.4	35.9	31.0 (29.5)
九 州	24.1	29.3	33.2	35.2	37.8	35.8	32.6 (31.6)

業況D I（前年同月比）の推移（全国）

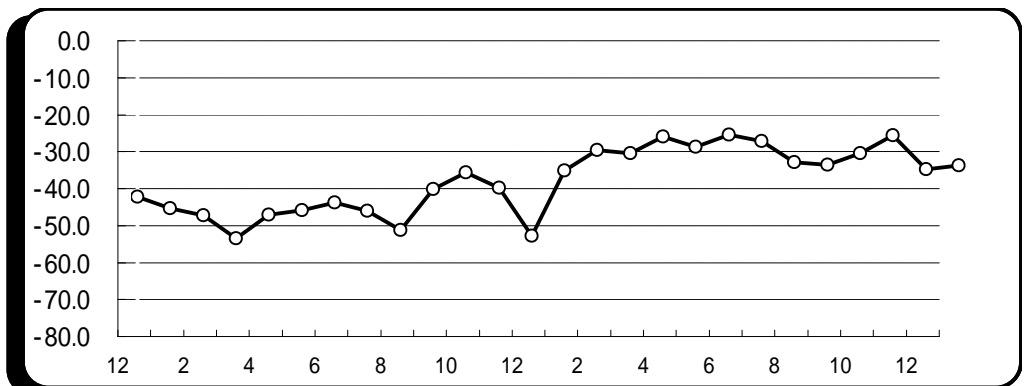
建設業



製造業



卸売業



小売業



サービス業

